

法人第七期
2017.7 - 2018.6


桜ライン311 活動報告書

Sakura Line 311
ANNUAL REPORT 2017



認定特定非営利活動法人 桜ライン311

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1
高田大隅つどいの丘商店街9号
0192-47-3399 (TEL/FAX)
info@sakura-line311.org
<http://www.sakura-line311.org>

後援：  岩手県陸前高田市

桜ライン311は、二〇一八年六月三〇日に期末を経て、七月一日より法人八期目を迎えることが出来ました。

活動を縮小・停止する団体も多数ある中、こうして活動を続けられることは大変ありがたいことです。そしてそれは、皆さまからのお気持ちをお預かりしているということでもあります。その責任の重さを感じつつ、とても誇らしくも思います。改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

「私たちは悔しいんです。」

次の世代に震災の教訓を伝え、私たちの悔しさを繰り返さないで欲しい。そのためにこの活動は始まりました。

津波の被害が想定される場合は、桜並木よりも高い場所に逃げてもらうことで、その時代の人的被害を軽減したい。現時点で一四二〇本市内の約二八四箇所に渡り、桜の苗木を植えてきました。春に花を咲かせる度に、津波がここまで来たことを私たちに教えてくれています。そして同時に、災害を未経験の方に「自分ごと」として捉えてもらい、日々の暮らしの中の災害を意識し、備えてもらうこと。日本という自然災害の多いこの国において、犠牲者を一人でも減らしたい。地域の子供たちだけではなく、全国各地からお越しくださる皆さまと一緒に植えているのは、津波到達地点に立ち、災害のリアルを肌で感じて欲しいからです。

東日本大震災は、私たちに「災害への意識の低さ」を突きつけました。毎年の災害も、百年に一度の災害も、そして東日本大震災のような年に一度の災害も、それは等しく日々の暮らしの中に潜んでいるもの。人的被害を発生させないことは、経験した私たちの願いです。「私たちは悔しいんです。」という言葉には、そんな思いが込められています。

あのことがあったからこそ、今の陸前高田があり、岩手があり、日本があるのだと思えるように。いつかすべての人がそう思えるようになることが、本当の意味での復興なのかも知れません。

皆さまと作る桜並木がその象徴となるよう、一本一本大切に植え、育てていきたい。それは長い時間を要しますが、しっかりと先を見据えて植え育て続けてまいります。まだまだ道半ばではありますが、東日本大震災に対する風化が叫ばれるからこそ、伝承の必要性が高まるということもあります。事業を継続することの難しさも、その尊さも日々感じながら、NPOの本質を忘れずに向き合っていきたいと心から思います。

桜ライン311は、多くの人の命が失われたことから生まれました。そこに私たちの思いだけではなく、多くの方が共感し支えてくださっていることこそ、この団体の価値があると私は信じています。これからも、住民の皆さまと全国の皆さまと共に、完成に向けて歩み続けてまいります。

認定特定非営利活動法人 桜ライン311

代表理事 岡本翔馬



私たちは、悔しいんです。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生し、一時間以内に東北各地を津波が襲いました。

陸前高田市でも多くの人が時間を止めました。

その後、「実は、今回と同規模の津波が三陸沿岸を飲みこんだ記録や痕跡がありました。」との、ニュースが流れていました。

十メートルを超える津波の可能性が、震災前から声高に叫ばれていれば！震災前の防潮堤には、限界があることを知らされていれば！

津波によって奪われた命は、もっと少なくて済んだのではないか？

その思いが、今も頭を巡ります。

私たちは、悔しいんです。

その思いを同じくする者が集まり、「桜ライン311」を立ち上げました。次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。

現在、瓦礫撤去が進み、津波の到達点がぼやけ始めている今、一日も早く、やりたいんです。

でも、私たちだけでは、限界があります。

皆さんの力を貸してください。お願いします。



地元の方々と、県外の皆さま、それぞれの想いを込めて

私どもの活動の根幹となるのが植樹事業です。二〇一一年十一月六日に一回目の植樹会を実施、市内の津波到達地点に三〇本の桜を植樹したところから、私どもの活動はスタートしました。以来、継続して春先と晩秋に植樹会を開催し、全国の方、時には海外の方にもご参加いただき、少しずつ桜ラインを増やしてきました。第七期の終了時点で、植樹本数は一四二〇本、ご参加いただいた方の累計は四七七九名にもなります。未だ道半ばではありますが、三〇本の植樹からスタートした小さな活動は、「災害によって人の命を失わない未来」に向けた大きな活動へと進化してきました。それはひとえに、私どもの活動にご支援をいただいている皆さまのご協力のおかげと、深く感謝しております。

今期は、新たな取り組みとして、植樹会の後にご参加の皆さまとの交流会を実施しました。これまで、アンケートを通して植樹会運営へのご意見を頂戴してきましたが、交流会では、植樹会以外での団体運営に関しても多くのご意見をいただくことが出来ました。また、結果的にご参加いただいた方の陸前高田・桜ライン311に対する想いも何うことが出来、その力強い想いにスタッフ一同、身の引き締まる思いがしました。

この交流会で多く話題に挙がったのは、「自分達が植えた桜の成長を見守りたい」というご意見でした。そのご意見を受けて、二〇一八年六月から募集を開始した桜のメンテナンスポランティアでは、過去に植えた桜を巡り、草刈・追肥といった作業をしていただく行程を実施することにしました。既に昨年を上

回る人数の参加申込みをいただいております。また、支援者さまのお力添えによって、運営の充実を図ることが出来たと感じています。

今後も、私どもの取り組みに関心を寄せてくださる皆さまの声に耳を傾け、一七〇〇本の植樹という大きな目標を達成するための体制づくりを進めていく所存です。引き続き、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、今期の変化としては、地元住民の方の活動への関わりが増えたことが挙げられます。これまで、地元住民の方の関わり方としては、津波到達地点の土地所有者としての関わりがほとんどでしたが、二〇一八年三月に植樹した場所では、近隣の高台移転先の住民の方が植樹に参加し、植樹会参加者と協力して桜を植えていただきました。ご参加いただいた地元住民の方は、桜を植樹したことを機にこの場所を高台移転住民の憩いの場として活用したいと話されていました。

震災の教訓を地域外の皆さまに伝えていくためには、私どもの言葉だけでは語りつくせない部分があります。前述のような交流は、その足りない部分を補う動きになると考えています。災害によって生まれた「悔しさ」は一人一人違った形で存在しています。その一つ一つの悔しさを全てが、大規模災害を経験していない方にとって重要な教訓となると考えています。その教訓が桜の植樹という機会を通して、被災地から被災地域外へと伝承され、「災害によって人の命を失わない未来」を創っていくと、私どもは信じています。



01) 夏場に伸びて、桜の成長を妨げる雑草の草刈 02) 気仙小学校植樹会 03) 桜町中学校植樹 04) 植樹会 05) 植樹会

植樹実績推移

| | |
|-------|--------------|
| 2011年 | 34本 (18箇所) |
| 2012年 | 376本(100箇所) |
| 2013年 | 647本(161箇所) |
| 2014年 | 766本(188箇所) |
| 2015年 | 932本(201箇所) |
| 2016年 | 1088本(228箇所) |
| 2017年 | 1324本(268箇所) |
| 2018年 | 1420本(284箇所) |

累計参加人数

| | |
|-------|-------|
| 2011年 | 57名 |
| 2012年 | 697名 |
| 2013年 | 1412名 |
| 2014年 | 2143名 |
| 2015年 | 2779名 |
| 2016年 | 3535名 |
| 2017年 | 4443名 |
| 2018年 | 4779名 |

※2018年3月末時点の植樹実績・参加実績になります。

植樹会一覧

| | |
|-------------|-------------|
| 2017年11月25日 | 秋の植樹会(第26回) |
| 2017年11月26日 | 理事植樹会 |
| 2017年12月2日 | 秋の植樹会(第27回) |
| 2018年3月10日 | 春の植樹会(第28回) |
| 2018年3月24日 | 春の植樹会(第29回) |
| 2018年3月25日 | 理事植樹会 |

学校植樹会一覧

| | |
|-------------|-----------------------|
| 2017年11月10日 | 一関市立本寺中学校 学校植樹会 |
| 2017年11月20日 | 一関市立桜町中学校 学校植樹会 |
| 2017年12月6日 | 岩手県立住田高等学校 学校植樹会 |
| 2018年2月26日 | 陸前高田市立米崎小学校 卒業記念学校植樹会 |
| 2018年3月5日 | 岩手県立大東高等学校 学校植樹会 |
| 2018年3月6日 | 陸前高田市立気仙小学校 卒業記念学校植樹会 |
| 2018年3月29日 | 陸前高田市立小友小学校 卒業記念学校植樹会 |



自然災害の多いこの国で “生きる”

植樹の事業自体がその意味も持っておりますが、一人でも多くの皆さまに震災の教訓をお伝えしたい。講演依頼をいただき全国各地で伝えることが、普及啓発事業の一つの柱。第七期は合計二十六回、ご来場者は二四二〇名となりました。前年に比べて六回の回数増、人数にしては八〇〇名ほど多い実績となりました。ご依頼をいただきました皆さまに、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

減災が最も多いテーマですが、同時に私たち一人ひとりに何ができるのか、さらに言えば遠隔地における関わり方についてのご依頼も多かった一年でした。時間が経過していくなか、どう携わることが良いことなのか。メディア露出が減り、現地の状況が分かっていくなってきたからこそ話だとも感じます。私はよく「震災でのご自身の経験を大切な人に伝えることから参加して欲しい」とお伝えしています。直接の被害を受けていない方には戸惑いのあることかもしれません。そこに伝承がされていくかの大きな分岐点があるか、と話して感じます。被災を直接的に経験した私たちだからこそ、お話しできることも当然あります。一方でそれは、被災されていない方からすると遠い言葉なのも事実。その間の立場にある皆さまが、それぞれの言葉で伝えていただくことが大きな役割を果たすことになる、私は感じています。

そして減災というテーマで必ずお伝えするのが、その瞬間を生き残れる人になって欲しいということ。人は無条件に自分が生き残ることを想定しがちですが、そうではありません。二〇一七年七月には九州北部豪雨が発生、多くの尊い命が奪われました。早い段階で避難してくれていたなら、失われずに済んだ命も多かったと思うと残念でなりません。それでも避けられないものも当然ありますが、そ

の確率は大きく下げられるものだと考えています。同時に避難というものの、認識とあり方が変わらなければならぬ時期が来ているのだと感じます。

先日、平成三十年七月豪雨が発生しました。七月時点で死者・行方不明者は二二九名に及び、平成、さらには昭和に遡っても最悪の豪雨被害となっております。津波は海がなければ被害に遭うことはありませんが、降雨に関わる災害はどこでも起こり得ます。東日本大震災以降に限っても、二〇一一年九月台風十二号（死者・行方不明者九十八名）、二〇一二年七月九州北部豪雨災害（死者・行方不明者九十八名）、二〇一三年十月伊豆大島土石流災害（死者・行方不明者三十三名）、二〇一四年八月豪雨（死者七十四名）、二〇一六年八月台風十号（死者・行方不明者二十二名）、二〇一七年七月九州北部豪雨災害（死者・行方不明者四十二名）と、毎年のように甚大な災害が発生しています。災害は、日本という国に住む上では生活の一部なのです。私たちはそのことを学び続けなければなりません。山津波という言葉があるように、土砂災害は津波と同じような様相となります。報道を見ていて大変苦しく思う瞬間もありますが、本年も多くの皆さまに災害について考えるきっかけを提供して参りたいと思います。是非お気軽にご相談いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、二〇一七年七月の九州北部豪雨に際し、緊急人道支援募金を実施いたしました。市内二十四箇所に設置した募金箱と特設口座にお振込みいただいた義援金、合わせて十二万八千七百三十五円のご支援を、被害の非常に大きかった福岡県朝倉市へ送金をいたしました。設置のご快諾をいただきました事業者の皆さま、そして特設口座に募金いただきました皆さまに、厚く御礼を申し上げます。



01) 気仙小学校との卒業記念植樹会 02) 2017東北みらい創りサマースクール第6回東北みらい賞受賞講演 03) 大東高等学校植樹会
04) 住田高等学校植樹会 05) 有限会社SORAさまでの講演会

九州北部豪雨に際した義援金募集

| | |
|-------|---------------------|
| 発 生 | 2017年 7月 5日 |
| 実施期間 | 2017年 7月10日 ~ 8月21日 |
| 募集総額 | 128,735円 |
| 送 金 先 | 福岡県朝倉市 |

募金活動にご協力頂いた店舗一覧 (50音順)

| | | |
|------------------|--------------|-------------------|
| 居酒屋 膳 | ケセンキョードーボックス | まちづくり協働センター |
| 伊東文具店 | 産直はまなす | 民宿志田 |
| ラーメン食堂 岩張楼 | 食堂 かもん | やぶ屋 |
| おかし工房 木村屋 | 中華食堂熊谷 | Café Yuki Grandpa |
| カフェフードバー わいわい | お菓子司 東海堂 | りくカフェ |
| 川の駅よこた | 農家カフェ フライパン | 陸前高田地域振興株式会社 |
| キャピタルホテル1000株式会社 | 箱根山テラス | 陸丸 |
| 陸前高田グローバルキャンパス | 二又復興交流センター | レストラン クローバー |



次の時代に継いでいくために

まちづくり計画の一部として桜並木を活用してもらえよう、政策提言事業をおこなっております。桜並木を育てていく過程で、街の文化となり、歴史となり、桜と街と人が支え合うような未来を目指しています。具体的には、桜並木が何を意味しているのかを説明する施設を設置したり、市の管理地に桜並木を歩くことができる遊歩道を整備したりというものです。陸前高田は今も「東日本大震災」「津波」というイメージが離れないかも知れません。でも五〇年、百年のうちに日本最大の桜並木の街となり、日本全国から花見に訪れ、東日本大震災について触れる。そんな形が次の世代にとって受け取りやすいのではないかと感じています。但し、復興の槌音が響く現在の陸前高田では、取り掛かるにはまだ尚早な分野でもあります。復興における最優先事項は、生活の再建と、商業も含めた街の機能の再建です。その意識は持ちながらも、次の価値を作り出していく部分にエネルギーを注ぐには、もう少し時間が必要だと感じる瞬間もあります。

その一方で、中心市街地ではない防潮堤の周辺エリアは「岩手県における東日本大震災復興祈念公園」が設置される予定です。二〇一四年の基本構想策定時から有識者委員会協働ワーキンググループ委員（以下WG委員）として、そして現在はグループ代表者会議のメンバーとして参加させていただいております。公園の基本計画は、

- 一、東日本大震災の伝承
- 二、復興へと立ち上がる姿と感謝の発信
- 三、三陸沿岸南部地域へのゲートウェイ機能

が軸になります。従前の高田松原を含むエリアに、国・岩手県・陸前高田市、そして住民の連携による公園が作られます。WG委員では、これまで「公園の運営面にあらゆる人々が参加できる仕組みづくり」を議論し続けてきましたが、昨年度中は、いよいよ施行稼働が始まった実際の祈念公園で、実質的な利用や制度設計を目指して議論を開始しました。

桜ライン311の活動趣旨は、震災の風化防止と伝承です。祈念公園も同じ趣旨であるため、その親和性は高いものです。但し、具体的にどのような連携をするかについては、分けて議論をする必要があると考え、公園を管理する予定の岩手県、設置自治体となる陸前高田市、整備に関わる国と議論を開始しています。議論の主軸は公園内とその周辺への桜の植樹についてですが、「被災地域すべてに桜を植えたい」という、団体設立当時の構想もあつたことを踏まえると、設立時の役員たちにとっては受け入れ難いものではありません。しかし、支えてくださっている皆さまにとっては、ある種の趣旨替えのように感じる方もいらっしゃると思っています。実施するのであれば、皆さまへのご説明はしっかりとしたものになければなりません。今までいただいているご寄附とは完全に切り離れた別枠を用意しなければいけません。二〇一九年の秋頃にはある程度決まっているかと思いますが、その都度皆さまにご案内できたらと思います。



01) ~ 05) 祈念公園有識者委員会のワーキンググループ、グループ代表者会議の様子



▲川原川とシンボルロードに挟まれた区域を望む

◀市道沿いから古川沼を望む



資料元：公園実施設計（岩手県）



桜ラインが完成する その日まで

これまでメディア取材や講演などの際には、団体の趣旨である「私たちは悔しいんです。」という思いを持ち、震災の教訓を伝えるだけでなく、更なる災害に「自分ごと」として備えてもらえるようにもお話してまいりました。私たちは伝承の手段として、津波の最高到達地点に誰からも愛される桜を植樹し並木を作ろうと、活動開始から七年で一四二〇本（二〇一八年四月現在）を植樹しました。講演の中では、一七〇〇〇本の植樹を達成するための具体的な数値として、二〇年の事業期間、四千万円の年間予算、八億円（概算）の総事業費を見込んでいます。

東日本大震災から七年が経ち、震災を対象とした補助金・助成金の数は確実に減少しています。団体活動をこの先も継続していくため、広報戦略について第六期から話し合いを重ねてまいりました。まずはご寄附しやすい環境作りをしようと、二〇一七年八月には振込用紙付リフレットの完成、二〇一八年二月には不要になった本による寄附の形「チャリボン」の開始、同年四月には公式ホームページを一新し、クレジットカードによるご寄附も開始いたしました。広報チームは、支えてくださる皆さまと共に、今後も桜の状態や活動の情報公開など、遠方の方にも身近に感じていただけるような広報力の強化に努めてまいります。

また、取材・講演を代表岡本だけが担うのではなく、事務局全体で発信していくという意識の向上や、そのために必要な知識を得るため、外部研修にも積極的に参加しました。研修では多くの支援者様にインタビューをさせていただき、団体の課題や解決のためのヒントを直接お聞きする、大変良い機会になりました。その成果として、植樹会後に交流会を実施する運びとなりました。交流会では、スタッフと参加者様との間で求めているものに差異があることや団

体としての可能性など、多くの気づきがありました。また、地元住民の参加が少ないというご意見もいただきましたが、団体としては被災された方の心情に配慮し、不特定多数への広報活動を控えてまいりました。

震災によって亡くなられた方の七回忌を終えて気持ちの整理がついた方、嵩上げされた中心市街地に商店が建設され始め、仮設住宅から自宅再建でお引越しされた方など、地元住民にも徐々に明るさが戻ってきたようにも見えます。また、桜ライン311に協力したいと申し出てくださる地元住民の方もいます。しかしながら、未だお身内が見つからない方や気持ちの整理がつかず悲しみの中におられる方も多くいらっしゃいます。こうした方々に配慮しながらも地元住民を巻き込んでいく方向への舵を切る、大きな転換期を迎えているのかも知れません。今後はより多くの地元住民のご理解とご協力を得ながら、団体としての方向性を見失うことなく、より良い組織運営を目指してまいります。

第七期もまた、受賞のお知らせをいただきました。東北みらい創りサマースクール実行委員会主催「第六回東北みらい賞」の受賞と、株式会社毎日新聞社主催「第七回地球未来賞クボタ賞」の受賞です。株式会社毎日新聞社主催の受賞式では新たな出会いもありました。徳島県で緑のリサイクル活動に取り組んでいる高校生たちから、草刈で刈った草を活用した堆肥「もったいない2号」の寄贈を受け、交流が始まっています。こうした出会いから交流に発展していくことはとてもありがたい嬉しものです。遠く離れた高校生たちが、桜ライン311の活動の伝承の担い手になってくれたらと願うばかりです。



年間活動実績

2017年7月1日～2018年6月30日

- 2017**
- 7**
- 講演 八幡平市立西根中学校「復興学習授業」
 - 講演 CND第15期フレッシューズセミナー
 - 活動 「九州北部豪雨に際した義援金募集」開始
 - 講演 岩手県立杜陵高等学校主催 平成29年度「いわて未来創造人サポート事業」
- 8**
- 講演 青森県立弘前高等学校主催 陸前高田巡視
 - 活動 「九州北部豪雨に際した義援金」送金
 - 講演 東北若者10000人会議
 - 講演 一関市立桜町中学校「復興学習授業」
- 9**
- 受賞 「東北みらい創りサマースクール」実行委員会主催【第6回東北みらい賞】受賞
 - 講演 特定非営利活動法人ワークスコープ 陸前高田視察
 - 活動 平成28年度支援者満足度調査 開始
- 10**
- 活動 キャピタルホテル1000株式会社主催 2017年秋の植樹会宿泊プラン 開始
 - 講演 公益社団法人名古屋市青年会議所主催「名古屋セーフティリーダー養成塾」
～名古屋の街を守る勇者になろう!～
 - 講演 大阪教育大学 FILM 陸前高田視察
- 11**
- 講演 住田町主催「森の達人(マイスター)講座」
 - 植樹 一関市立本寺中学校 学校植樹会
 - 講演 防災人材交流セミナー実行委員会主催「つなぎ舎」
 - 講演 豊田市立小原中学校「復興支援学習」
 - 講演 一般社団法人岩手青少年会館主催 2017年度JICA青年研修(イラク共和国)
 - 植樹 一関市立桜町中学校 学校植樹会
 - 植樹 秋の植樹会(第26回)
 - 植樹 理事植樹会
 - 講演 岩手社会福祉協議会主催
「東北フォーラム2017inいわて(東北地区知的障害者福祉協議会職員研修大会)」
- 12**
- 植樹 秋の植樹会(第27回)
 - 植樹 岩手県立住田高等学校 学校植樹会
 - 活動 平成28年度支援者満足度調査 結果公開
 - 活動 ユニリーバ・ジャパン株式会社主催
「LUX SAKURA DREAM【ラックスルミニークサクラドリーム】」



- 2018**
- 1**
- 受賞 株式会社毎日新聞社主催【第7回「地球未来賞」クボタ賞】受賞
 - 活動 キャピタルホテル1000株式会社主催 2018年春の植樹会宿泊プラン 開始
- 2**
- 活動 東急百貨店主催「咲かせよう、桜ライン」チャリティプロジェクト
 - 活動 「チャリボン」受付開始
 - 講演 毎日新聞社地球未来賞 受賞式記念講演会
 - 活動 有限会社ソラ 桜の刻印で応援しよう!【桜ライン311東北支援キャンペーン】開催
 - 講演 まちづくり協働センター主催「まち大学」
 - 植樹 陸前高田市立米崎小学校 卒業記念学校植樹会
 - 講演 有限会社ソラ主催「社会研修会」
- 3**
- 植樹 岩手県立大東高等学校 学校植樹会
 - 植樹 陸前高田市立気仙小学校 卒業記念学校植樹会
 - 植樹 春の植樹会(第28回)
 - 活動 桜ライン311×kanakeno コラボ鉄瓶「さくらふぶき」販売開始(受注生産)
 - 講演 タヤマスタジオ株式会社主催
【桜ライン311×kanakeno コラボ鉄瓶販売記念イベント「つぎ、つぎ、つぎ」】
 - 講演 対馬一誠主催「震災復興支援&一誠20周年記念ディナーショー」
 - 講演 幸福の黄色いバンダナの会主催「忘れない、3.11 Vol.7」
 - 植樹 春の植樹会(第29回)
 - 講演 全労済福井推進本部主催「家族で楽しく学ぶ 防災・減災フェア」
 - 植樹 理事植樹会
 - 植樹 陸前高田市立小友小学校 卒業記念学校植樹会
- 4**
- 活動 団体ホームページリニューアル
- 5**
- 講演 岩手大学講義「地域おこし論」
 - 活動 夏の草刈作業参加者募集 開始
 - 講演 北上市主催「展勝地ゆかりの地訪問事業」
- 6**
- 講演 名古屋市主催「瑞穂区総会」
 - 活動 「Brand Pledge」受付開始



メディア掲載一覧

| テレビ | 2017年 | 7月21日 | NHK盛岡放送局 | 11月20日 | IBC岩手放送 | 3月11日 | 入間ケーブルテレビ |
|-----|-------|--------|----------|-------------|---------------|-------|-----------|
| | | 10月31日 | NHK | 11月20日 | 岩手めんこいテレビ | 3月26日 | テレビ岩手 |
| | | 11月 5日 | 住田テレビ | 11月25日 | テレビ岩手 | 3月26日 | 岩手めんこいテレビ |
| | | 11月10日 | テレビ岩手 | 12月 6日 | 住田テレビ | 4月 5日 | 大阪よみうりテレビ |
| | | 11月15日 | NHK | 2018年 1月19日 | NHK | 4月27日 | テレビ岩手 |
| | | 11月16日 | ひまわりテレビ | 3月 5日 | IBC岩手放送 | 5月 2日 | 岩手めんこいテレビ |
| 新聞 | 2017年 | 7月22日 | 河北新報 | 11月25日 | 岩手日報 | 3月 6日 | 岩手日報 |
| | | 8月21日 | 中日新聞 | 12月 2日 | 東海新報 | 3月 7日 | 東海新報 |
| | | 9月 2日 | 岩手日報 | 12月 9日 | 東海新報 | 3月14日 | 毎日新聞社 |
| | | 11月11日 | 東海新報 | 12月21日 | 東海新報 | 3月16日 | 公明新聞 |
| | | 11月11日 | 岩手日報 | 12月23日 | 東海新報 | 3月25日 | 世界日報 |
| | | 11月11日 | 中日新聞号外 | 2018年 1月10日 | 毎日新聞 | 4月20日 | 河北新報 |
| | | 11月12日 | 中日新聞(本紙) | 2月 2日 | 朝日新聞(連載:全15回) | | |
| | | 11月24日 | 中日新聞(本紙) | 2月11日 | 毎日新聞 | | |

| ラジオ | 2017年 | 10月 4日 | ラジオ山口「そこが聞きたい!“担当”直入」 | 2月14日 | FMヨコハマ放送「E-ne!〜good for you〜」 |
|-----|-------|--------|-----------------------|-------|-------------------------------|
| | 2018年 | 2月 1日 | NHK福岡放送局「はっけんラジオ」 | 4月 4日 | 東京FMクロノス「LOVE & HOPE」 |

| WEB | 2018年 | 3月14日 | AXA People Protectors Facebookページ |
|-----|-------|-------|---|
| | | 4月 5日 | NIKKEI STYLE(日経新聞デジタル版)「梶原しげるの『しゃべりテク』」 |
| | | 5月 9日 | NPO法-特定非営利活動促進法-制定20年 YouTube動画 |

| 雑誌・その他 | 2017年 | 7月14日 | 日本青年団体協議会「生きる」第5号 |
|--------|-------|--------|---------------------------------------|
| | | 11月 1日 | 挑戦と改革の50年(株式会社ダイナム) |
| | | 11月12日 | 社会貢献団体ガイドブック(鎌倉新書) |
| | | 11月22日 | 学校法人安城学園創立105周年記念誌「東日本から学ぶプロジェクト」 |
| | | 12月20日 | 農村計画学会誌「つちのこえ」 |
| | 2018年 | 2月28日 | 小田和正ファンクラブ「PRESS」 |
| | | 3月 7日 | プレジデントウーマン |
| | | 3月27日 | 大和証券社内報 |
| | | 5月14日 | ZONE(全トヨタ労働組合連合会 会報紙) |
| | | 6月12日 | オフィスふくしま(ドローン空撮) |
| | | 8月28日 | 国際ソロプチミスト新潟-西 会報誌(2016年「社会ボランティア賞」受賞) |

支援企業・団体およびマンスリーサポーター

支援企業・団体

| | | |
|----------------------|-----------------------|--------------------------|
| 青森県立弘前高等学校 | Café Yuki Grandpa | 写真家 谷亮磨 |
| 旭川ユネスコ協会 | カラーパーティーウエスト事務局 | 少林寺拳法復興支援 陸前高田チーム |
| アマゾンジャパン合同会社 | 川崎さくらライオンズクラブ | 株式会社 |
| 飯田市立飯田東中学校 | 川の駅よこた | ジャパンコミュニケーションズインスティテュート |
| 居酒屋 膳 | 学校法人関西大学学生団体 KUMC | 湘南ホノルルマラソン倶楽部 |
| 一関市立桜町中学校 | 顔晴っぺ!とうほく元気プロジェクト | 食堂かもん |
| 一関市立本寺中学校 | 一般社団法人 危機管理教育研究所 | シンワ株式会社 |
| 伊東文具店 | 北上市役所 | 震災復興支援 & 一誠20周年記念ディナーショー |
| 岩手県立住田高等学校 | 北村家 | Standing Together TOUOH |
| 岩手県立大東高等学校 | 特定非営利活動法人 ぎふ長良川走ろう会 | 株式会社 ステディスタディ |
| 岩手県立杜陵高等学校 | 木村鉄筋工業株式会社 | 住田町教育委員会事務局 |
| いわて生活協同組合 | キャピタルホテル1000株式会社 | 生活協同組合 おおさかパルコープ |
| 一般社団法人 岩手青少年会館 | 共愛学園こども園 | 聖光学院高等学校 |
| 岩手社会福祉協議会 | 教育ネットフリースクール KOPPIE | 一般社団法人 清流会 |
| with震災支援ライブ七転び八起き | グーグル合同会社 | 全トヨタ販売労働組合連合会 |
| 愛媛県立今治北高等学校 | gooddo株式会社 | 株式会社 セントラル工業 |
| FJK会 | 熊谷珈琲店 | 全労済福井推進本部 |
| 江別更生保護女性会 | グランドハイアット東京 | 有限会社 ソラ |
| MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ | 株式会社 グリーバル | 株式会社 ダイナムジャパンホールディングス |
| 大石軍団 | ケセンキョードーボックス | 大和証券株式会社 |
| 大蔵頼朝桜道の会 | 国際ソロプチミスト新潟 - 西 | 大和ハウス工業株式会社 |
| 大阪青い鯉のぼりプロジェクト | 国立大学法人 大阪教育大学 FILM | 玉乃湯 |
| 大阪よどがわ市民生活協同組合 | 琴似ポプラうたう会 | タヤマスタジオ株式会社 |
| 大船渡ユネスコ協会 | 特定非営利活動法人 コムラボ | 株式会社 タンク |
| 岡崎桜まつり太鼓フェスティバル実行委員会 | 特定非営利活動法人 再生の里ヤルキタウン | 千種区民まつり実行委員会 |
| おかし工房 木村屋 | さくららいいん | チャリティーウォーク実行委員会 |
| お菓子司 東海堂 | 桜ライン3.11in絆 | 中華食堂 熊谷 |
| 株式会社 岡村製作所 労働組合 | 桜ライン311に勝手に繋がる大阪 | 特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会 |
| お花見茶会有志一同 | 桜ライン311 上田 | 株式会社 テレビ岩手 |
| オリジナルショップなかのや | 桜ライン311 陸前高田の桜を見守る会有志 | 株式会社 デンコードー |
| 「音楽と童話のクリスマス」実行委員会 | ジャーナリスト 佐藤慧 | デンソー岩手労働組合 |
| ガールスカウト千葉県第65団 | 株式会社 サンキュー | 伝馬・おたがいさま |
| ガールスカウト千葉県第100団 | 産直はまなす | 宗教法人 天理教 籾ノ上分教会 |
| 株式会社 カオスモデルエージェンシー | 幸福(しあわせ)の黄色いバンダナの会 | 株式会社 東急百貨店 |
| 科学読物研究会 | 株式会社 シーズンズ | 東武トップツアーズがんばれ陸高応援隊 |
| 神奈川布教区婦人会 | 清水まなみ&仲間たち | |
| カフェフードパーわいわい | 市民生活協同組合ならコープ | |

マンスリーサポーター

| | | | | |
|---------|-------------|------------|-------|----------|
| 浅葉正美 | 及川登美江 | 川口真理 | 阪上浩 | 鈴木正子 |
| 安曇野クロリン | 尾島奈緒子 | 北村規子 | 榎原由紀子 | 高石祐次 |
| 天田輔 | 小幡恵美 | 木村鉄筋工業株式会社 | 佐々木信秋 | Team29一同 |
| 荒川夏実 | kazue omoto | 後藤良平 | 笹野絹代 | 土山隆宏・明代 |
| 岩崎政孝 | 金澤正浩 | 小針光雄 | 生源寺隆 | 栃木由香 |
| 岩田達明 | 金光結香 | 齊藤宏樹 | 鈴木佐知子 | 豊田麻里衣 |

皆さまのあたたかい支えなくして、活動を続けていくことはできませんでした。心より感謝申し上げます。

| | | |
|---------------------|---------------------------|------------------------|
| 東北みらい創りサマースクール実行委員会 | ハチドリのひとつく | ヤフー株式会社 |
| 東北さくらライブプロジェクト | 八幡平市立西根中学校 | やぶ屋 |
| 東北若者10000人会議実行委員会 | 株式会社 バリュブックス | 山形県立東桜学館高等学校 |
| 遠野市遠野町15区自治会 | 日高くるくるねっと東北応援隊 | 山梨県少林寺拳法連盟 |
| 遠野市立小友中学校 | ヒューマンRG新体操クラブ | YUI & JOY |
| 第22回(昭和44年)卒業生 | 弘果総合研究開発株式会社 | 株式会社 ユー・アイ・コミュニケーションズ |
| 徳島県立新野高等学校 | 福井県民生活協同組合 | ユニリーバ・ジャパン株式会社 |
| 徳島県立小松島西高等学校 | 福井県労働者福祉協議会 | 有限会社 吉野屋商会 |
| 徳島県立小松島西高等学校勝浦校 | 福井市ボランティア連絡協議会 | 47style |
| 鳥取県立八頭高等学校 | 株式会社 富士住建 | ラーメン食堂 岩張楼 |
| 豊田市教職員組合 | 二又復興交流センター | 特定非営利活動法人 ライフステーション100 |
| 豊田市中学校バスケットボール有志 | フラワークリエイターズマーケット | 楽風打 |
| 豊田市立足助中学校 | プレーメンホームベーカーリー | 特定非営利活動法人 りくカフェ |
| 豊田市立小原中学校 | 一般社団法人 プロトレ | 陸前高田グローバルキャンパス |
| トヨタ部品東北共販株式会社 | 防災人材交流セミナー実行委員会 | 陸前高田市役所 |
| 豊田・みよしおやこ劇場 | ほのぼのサロン | 陸前高田市立小友小学校 |
| トリオシステムプランズ株式会社 | 株式会社 ほり川 | 陸前高田市立気仙小学校 |
| トレンドマイクロ株式会社 | 株式会社 毎日新聞社 | 陸前高田市立ふるさとセンター |
| 中北音楽教室 | 前田建設工業株式会社 | 陸前高田まちづくり協働センター |
| 名古屋市交流団一同 | まちだ陸前高田復興支援の会 | 陸前高田市立米崎小学校 |
| 公益社団法人 名古屋市青年会議所 | 松阪市役所 | 陸前高田地域振興株式会社 |
| 名古屋市瑞穂区役所 | 松阪市役所 二役部長会 | 陸丸 |
| 名古屋市立供米田中学校 | 一般社団法人 松戸市観光協会 | リコー社会貢献クラブ・FreeWill |
| 名古屋市立天神山中学校 | 株式会社 マピオン | リバティタウン伊勢原管理組合「花の会」 |
| 名古屋市立富士中学校 | ママコミュ!ドットコム チャリティコンサート | 株式会社 リブラン |
| 名古屋市立北陵中学校 | Me Project | 竜王太鼓保存会 |
| 名古屋瑞穂ライオンズクラブ | 三浦太鼓店 | レストラン クローバー |
| nutmeg | みずほ自治会 | 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ |
| 奈良・佐保川桜まつり燈火会実行委員会 | みちのく秋田チャリティーラン &ウォーク実行委員会 | 和歌山更生保護女性会8分会 |
| 認定特定非営利活動法人 難民支援協会 | 緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム | ワコウ建設株式会社 |
| 特定非営利活動法人 日本全国志士協義会 | | 和太鼓 Do-Da |
| 一般社団法人 日本老人福祉財団 | | wato kitchen |
| 農家カフェフライパン | | |
| のうとみ整骨院 | | |
| フォトグラファー 野田香菜子 | | |
| フォトジャーナリスト 安田菜津紀 | | |
| 箱根山テラス | | |

※ 敬称略、振込み名のわかっているもののみ掲載
 ※ 50音順にて表記
 ※ 対象期間は第7期(2017/7/1～2018/6/30)となります。
 ※ 寄附の多寡に関わらない協賛寄附、苗木提供、ボランティア参加、当団体との企画参加などを元に作成しております。
 ※ 個人名については、桜ライン311マンスリーサポーターにお申し込みいただいた方で、掲載をご希望された方のみとさせていただきます。



東京都三鷹市
中尾 和実・薫 様

ボランティアで復興のお手伝いをさせて頂きながらも、未来像を持っていませんでした。でも、震災から一年が経とうとする頃、このプロジェクトを知り、満開の桜並木が未来への導線のように続くのが見えた気がしたのです。年を経て、そのイメージが実現し始めている事を、とても嬉しく思います。今後とも宜しくお願い致します。



危機管理教育研究所代表
国崎 信江 様

継続は力なり。7年前に始まったこの壮大な計画を着実に実行していることが素晴らしいです。桜ラインが完成する日も待ち遠しいですが、地域の理解や協力、支援者とのネットワーク、歩んできた1歩1歩全てに価値があると思います。ぜひ災害伝承の歴史を作ってください。これからも応援します！



ユニリーバ・ジャパン 様

「後世に伝えたい」という長期的で持続的な理念に感銘をうけ、植樹活動、および、自社製品の売上の一部が寄附されるという形で支援を続けています。企業として日本の未来に貢献するだけではなく、消費者の皆さまにもお買い物を通じて気軽に社会貢献していただける機会を提供できることに、大きな価値を感じています。

支援者さまからの声

活動を支えてくださる皆さま



東京都
門脇 進 様

いつも植樹に参加させていただき、感謝しています。桜ライン311の活動があるからこそ、何度も陸前高田を訪れることができ、復興の様子を感じることができます。多くの友人を東北に連れてくることもできました。災害は他人事ではないということを常に忘れずに、自分や大切な人を守れるよう日々生活していきたいと思ひます。



フォトジャーナリスト
安田 菜津紀 様

同じ苦しみを繰り返さないために、そしてここを、悲しいだけの街にしないために。そんな願いを込め、未来へと綴る手紙は、言葉だけに留まらないはず。私たちは写真で、皆さんは桜の木々によって、これからの命が救われる手がかりを、一緒に残していきたいと思います。

キャピタルホテル1000 株式会社
代表取締役社長 松田 修一 様

震災後早々、目に見える形でかつ地道な取組をされていることに敬意を表します。手間をかけるからこそ後世に伝わる教訓の標として、また年に1度咲き乱れ、徐々に整うまちに彩りを添える光景を目に浮かべながら、今後も地域の同志として共に歩んで参りたいと思ひます。強い陸前高田のまちの創造に向けて共に頑張りましょう。



陸前高田市長
戸羽 太 様

桜ライン311の皆様には、震災の教訓を後世に伝えるための植樹活動、防災意識を高める普及啓発に継続して取り組んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。震災から7年が経過し、ようやく新しいまちの姿が見えてまいりました。多くの皆様とともに、今後も桜ライン311の活動を応援させていただきます。



広田町
金野 正伸 様

あの震災で住む所も失ったが、命だけは助かった。というか、生かされたのだろう。桜ライン311の活動に共感し、2年ほど前から植樹会等のボランティア活動に参加し始めた。これからは、植樹以外の維持管理の方にも協力していきたい。地元の間人だから出来る事を。桜ラインが満開に咲きつながらることを思いながら。



一関市立桜町中学校 3学年主任
大友 一篤 様

桜ライン311の皆さまの全面的なご支援を頂きながら、復興の学習を継続して行くことができました。ここ数年で、私たちが復興についてどのように学び、どのようにアクションするのか、おかげさまで方向性が見えてきているなど感じています。桜のご縁を頂いたことに感謝です。これからもどうぞよろしくお願い致します。



株式会社ダイナム
代表取締役 藤本 達司 様

ダイナムは全国のパチンコホールに来店して下さるお客様と共に、東日本大震災の復興支援に取り組んでいます。桜ライン311の活動趣旨に賛同し、今後も「街と生きるパチンコ」として震災が風化することのないよう桜が育つのを見守っていきます。



株式会社マピオン
取締役 佐藤 孝也 様

桜ライン311の活動で植樹された桜の位置や、標高などを地図上に表す「桜ライン311応援マップ」の運営をしています。活動の軌跡をデジタル地図に残すことで、桜に込められた皆様の思いを将来へ引き継いでいければと考えています。これからも微力ながらお手伝いしてまいります。



NPO 法人 日本全国志士協義会
副理事長 三宅 隆史 様

桜ライン311とは、私共の会員様の取り持つご縁により繋がりました。災害体験者として壮大な計画を、後世への災害の警鐘と伝承の一助として取り組む姿勢に深く感銘し、植樹ボランティア及びボランティアスタッフとして参加しております。桜ライン311の皆様方との繋がりに、今後ご縁を育んで行こうと思ひます。



東北さくらライブプロジェクト
共同代表 澤向 美希 様

桜ライン311の取り組みを知り、目標達成まで応援したいと集まった私たちの活動も、6年目を迎えました。今年は小田和正さんのツアーの岩手公演にて、桜ライン311のみなさんと一緒に桜の植樹活動の取り組みを紹介します。「その日が来るまで」、発信、応援を続けます。



株式会社東急百貨店 取締役
専務執行役員 営業本部長 上根 弘 様

桜ライン311様との取組は今年で7回目となりました。年々、被災地の復興が進んでいく様子を嬉しく思うと同時に、震災を風化させてはならないと強く感じております。東急百貨店は、今後もチャリティグッズの販売を通して桜ライン311様の活動を応援させていただきます。

毎月定額寄附制度 マンスリーサポーター

桜ライン311では、“桜の育て親”になってくれる方を募集しています。

マンスリーサポーターは、クレジットカードを使った寄附制度です。毎月、自分で決めた金額が自動で引き落とされるシステムのため、簡単に継続的な寄附ができるようになっています。

サポーターの方には、サポーター限定の桜ライン311ニュースレター（年2回）と、活動報告書（年1回）をお届けしています。変わりゆく陸前高田のまちと、桜ラインの活動が身近に感じられる、情報満載の内容です。

また、特典としてあなただけのオリジナル会員証を発行しています。

1日 **100円** (3,000円/月) ができること



桜の苗木1本(3mサイズ)を植樹し、1年間守ることができます。

1日 **200円** (6,000円/月) ができること



学校植樹会を1回開催することができます。(3本植樹の場合)

※金額は任意での設定も可能です。

お手続きはインターネットからとなります

<http://www.sakura-line311.org/supporter>

いただいたご寄附は上記内容だけでなく、苗木育成管理などの植樹事業や、講演を含む普及・啓発事業など、団体の事業運営のために使用いたします。

認定NPO法人制度に伴い、マンスリーサポーターは税控除の対象となります。(最大50%の減税対象) ご寄附の領収書は、毎年1月、前年の1月から12月までの期間を対象としてまとめ、年1回発行いたします。

マンスリーサポーターの方のみ、個人のお名前を年間の活動報告書に掲載させていただきます。(希望者のみ)

一般のご寄附は、口座振込等にて承っております。詳しくはHPをご覧ください。事務局までお問い合わせください。



北村 則子 様

中学校の教諭を退職し、大学院で津波にまつわる話を集めていた時桜ライン311の話と出会いました。早速代表の岡本さんに話を伺い感銘を受けました。震災を伝える、また津波があった時には命を守る、故郷の誇りとなる景観をつくる。次世代に向けて、そんな存在になり得る桜を植える手伝いができることをうれしく思います。



阪上 浩 様

あの日、私は道の駅・高田松原に居てカーラジオで大津波警報発令を知り、咄嗟に山側に逃げ運よく死を免れた。あれ以来「この命は拾ったもの」と思い、出来る範囲で市の復興支援を続けている。昨年日経新聞東北欄で桜ライン311を知り、その志の高さに感銘してマンスリーサポーターになりました。ご健闘を祈っております。



気仙町
菅野 孝一 様

震災時、残った4件の家に分かれて寝泊まりし、ご飯を作ったり助け合って生活しました。現在は同じ地区の高台に家を再建し、生活もやっと落ち着いてきたところです。お世話になった近隣の人にも桜並木が見えたらいいな、と思い、うちの畑に桜を植えていただきました。きれいに咲いた時にみんなと見るのを楽しみにしています。



広田町
佐藤 利一 様

被災した宅地のまわりに桜ライン311で桜を植えてもらいました。桜の花が咲く季節になると高台団地の人たちも眺めて喜んでくれます。津波到達地点の目印としてこれからも見守ってきたいです。地道な活動を続けておられる皆さんに頭が下がります。桜の木がこれからもきれいに咲き続けて欲しいです。



小友町
戸羽 力 様

桜は特別な思い出があるため、歴史の1ページにしようと、母の誕生日に記念樹として植えた。私の自宅も今では地域で一番低い位置で生活を営んでいる。庭先に植えた桜はまだ若桜だが、今に魅了するような花を咲かせるだろう。このプロジェクトを成功させるために、これからもスタッフの皆様と花守りとして活動の後押しをしていきたい。



米崎町
鈴木 チカ子 様

あの巨大津波の到達点に桜の植樹、我が家の山地の中腹にも植えられた。藪を刈り、急斜面でもポリタンクで水を運んだり、植樹後にはネットで囲んだり。大変な苦労だ。何年後には桜が咲き、地域住民の花見の場所になる所もあるかも知れない。津波の恐怖を後世に引き継ぎ、防災に対する意識の向上に繋ぐ事と思う。

組織概要

2018年6月末現在

正式名称 認定特定非営利活動法人 桜ライン311
 代表理事 岡本 翔馬
 設立 2011年10月16日
 法人格取得 2012年 5月 1日
 認定NPO法人取得 2014年 5月 1日

| | | |
|---------|-------------------|----------------|
| 役員 | 代表理事 | 岡本 翔馬 (事務局長兼任) |
| | 副代表理事 | 東平 享浩 中井 勝義 |
| 理事 | 中山 大輔 | |
| | 松田 恵美子 | |
| | 伊勢 友紀 (事務局スタッフ兼任) | |
| | 小川 光一 | |
| 監事 | 石井 宏明 | |
| | 在間 文康 | |
| 事務局スタッフ | 佐々木 良麻 | |
| | 佐々木 正也 | |
| | 矢作 彩子 | |
| | 荒川 奈由 | |

| | | |
|-----|-------|---|
| 受賞歴 | 2012年 | 一般財団法人日本ファッション協会 日本クリエイション賞 |
| | 2014年 | 公益財団法人日本デザイン振興会 GOOD DESIGN AWARD 2014 金賞 |
| | 2015年 | 一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞 |
| | 2016年 | 公益財団法人ソロプチミスト日本財団 社会ボランティア賞 |
| | 2017年 | 国土交通省手づくり郷土(ふるさと)賞 一般部門グランプリ |
| | 2017年 | 公益財団法人日本さくらの会 平成29年度さくら功労賞 |
| | 2017年 | 「東北みらい創りサマースクール」実行委員会 第6回東北みらい賞 |
| | 2018年 | 株式会社毎日新聞社 第7回「地球未来賞」クボタ賞 |



会計報告

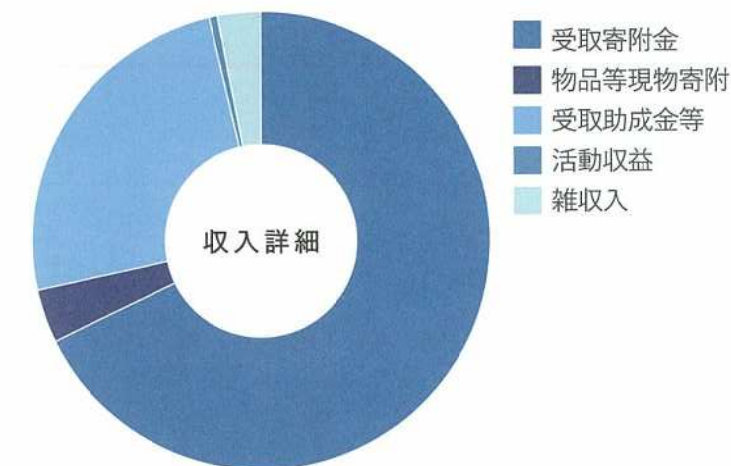
認定特定非営利活動法人桜ライン311 2017年度会計報告

【事業期間】2017年7月1日より2018年6月30日まで

| | |
|------------|------------|
| 前期現金預金等繰越額 | 2,964,585 |
| 当期収入総額 | 39,990,095 |
| 当期支出総額 | 28,164,599 |
| 今期現金預金等繰越額 | 14,790,081 |

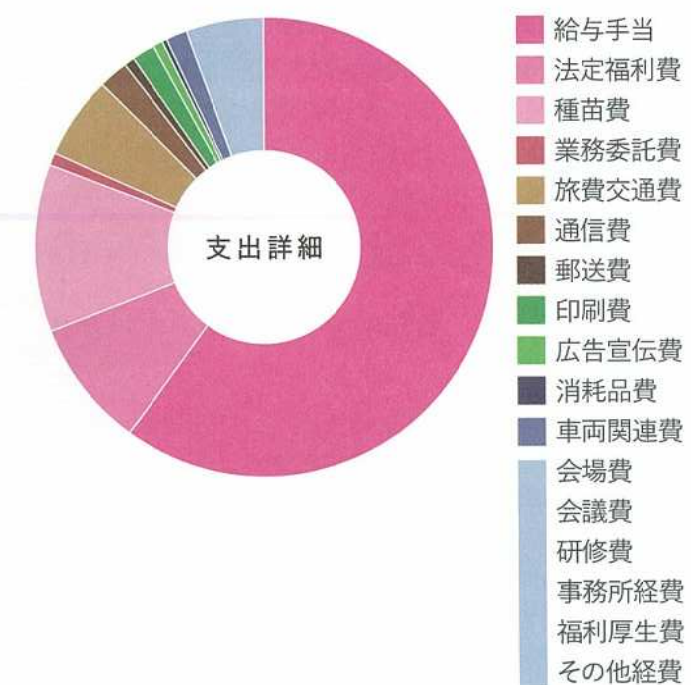
収入詳細

| | |
|---------|------------|
| 受取会費 | 0 |
| 受取寄附金 | 27,143,009 |
| 物品等現物寄附 | 1,501,700 |
| 受取助成金等 | 9,910,000 |
| 活動収益 | 238,686 |
| 受取利息 | 23 |
| 雑収入 | 1,196,677 |
| 合計 | 39,990,095 |



支出詳細

| | |
|--------------------|------------|
| 給与手当 | 16,919,000 |
| 法定福利費 | 2,539,064 |
| 種苗費 | 3,324,525 |
| 業務委託費 | 248,400 |
| 樹木保全費 | 0 |
| 旅費交通費 | 1,644,978 |
| 通信費 | 581,297 |
| 郵送費 | 205,123 |
| 印刷費 | 456,194 |
| 広告宣伝費 | 194,400 |
| 消耗品費 | 96,743 |
| 車両関連費 | 421,216 |
| 諸謝金 | 3,000 |
| 会場費 | 22,880 |
| 会議費 | 134,805 |
| 土地整備費 | 0 |
| 研修費 | 77,160 |
| 設備備品購入費 | 0 |
| 事務所経費 | 420,000 |
| 福利厚生費 | 66,617 |
| その他経費(手数料、租税公課、雑費) | 809,197 |
| 今年度特定資産積立 | 0 |
| 合計 | 28,164,599 |



桜ライン311活動基金

| | |
|----------|-------------|
| 前期繰越特定資産 | 103,031,674 |
| 受取利子 | 825 |
| 今期特定資産積立 | 0 |
| 今期特定資産総額 | 103,032,499 |

※ 桜ライン311 活動基金：
 桜ライン311各事業への将来利用を目的として、理事会にて積立/取崩し/管理される基金です。尚、当基金は100%事業への使用となります。
 ※ 詳細な事業報告等書類につきましては桜ライン311の団体HPよりダウンロード可能となっております。またダウンロード可能な各諸表は、「認定NPO法人等の情報公開」に基づき、「活動報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録、注記事業別経費の状況」の5点です。ご要望いただければこちらから印刷してお送りいたしますので事務局までご連絡ください。